

# 山行報告書

京都田辺山友会

報告者 佐坂 茂美

山名	甲斐駒ヶ岳 (千丈ヶ岳)		山行名	夏山集中登山		
ルート	7月26日 新田辺＝仙流荘＝北沢峠 (こもれび山荘) 7月27日 北沢峠 (こもれび山荘) — 仙水小屋 — 仙水峠 — 駒津峰 — 甲斐駒ヶ岳 — 駒津峰 — 双児山 — 北沢峠 7月28日 北沢峠＝仙流荘＝新田辺					
山行日	2015年7月26日～28日		天候	7月26日 晴れ 7月27日 晴れ 7月28日 雨後晴れ		
参加者	リーダー：佐坂 サブリーダー：中田 男性：赤松、平松、西川 女性：河野、徳田、上田、伊藤 合計：9名					
ルート概略図	コースタイム (甲斐駒のみ) 7月28日の千丈ヶ岳は降雨の為、山行中止					
	地名	時：分	地名	時：分		
	北沢峠	集		甲斐駒ヶ岳	着	11:18
		発	5:00		発	12:00
	長衛小屋	着	5:10	六方石	着	12:50
		発			発	13:00
	仙水小屋	着	5:50	駒津峰	着	13:35
		発			発	13:45
	仙水峠	着	6:35	双児山	着	14:33
		発	6:48		発	14:40
	駒津峰	着	9:00	北沢峠	着	16:45
発		9:10				
六方石	着	9:50	所要時間			
	発		11時間45分			

## 山行報告

昨年の夏山は天候不良でピークを踏めない山座があり、今年こそ 目的の山座を好天の元で恵まれた完踏山行を期待したが 又々、台風12号が接近、通過。 3度企画されたトレーニング山行も1回は雨天中止。 最後は山座変更でのトレーニングと散々な事前準備であった。

7月26日 (新田辺駅＝仙流荘＝北沢峠 (こもれび山荘))

新田辺駅—大住ヶ丘バス停—松井ヶ丘バス停で19名の参加者を乗せたマイクロバスは養老SA、駒ヶ岳SAでの休憩の後、林道バス乗り場の仙流荘に11時45分に到着。 林道バスは定員(28名)が揃えば定刻前でも出発(その後臨時バス運行)とかで、13時25分に出発する事になった。 林道バスのドライバーが傍の花や、窓外に見え隠れする鋸岳、甲斐駒ヶ岳(通称 東駒)の説明をしてくれました。

前回（2010年8月2日～4日）の夏山同様 この北沢峠で北岳グループはバスを乗り換え広河原へ。

甲斐駒・千丈組は荷を小屋に置き翌日の入山口・長衛小屋を確認。 帰路に「見晴らし台」との道標があり行ってみると見えたのは「北岳」のみ。 皆の「なんだ 北岳だけか！」との言を受け「来ただけー」と発声。 皆の笑が聞こえた。 小屋に帰り、翌日の計画を確認後、夕食 午後8時に消灯、就寝した

7月27日

出発を5時に変更したため、ヘッドランプを使わずの山行開始。

出発直前にこれまでのヒヤリハット経験からストックの使い方を説明。 歩行途中のストックの調整等での“・・・しながら、同時に・・・する”はしないようにと注意喚起した。

昨日確認しておいた長衛小屋を抜け、色とりどりのテントを右に見て左手にゴーロ状の斜面（岩塊斜面）の裾野を進む。 摩利支天の見える仙水峠から駒津峰を目指した急登が始まる。 標高2500メートル前後の地点で一人の体調不良（高山病？）の申し出があったが、駒津峰までの標高差は200メートル程度であり、最悪でも駒津峰で登頂組と合流しようと距離をおきながらもゆっくりと登り続けました。 樹林地帯を抜ける頃に追いつき全員で駒津峰に到着。 ハイマツ地帯を抜けると痩せ尾根、六方石に着く。 ここから岩場直登の提案もあったが、右の巻道を選択。 北岳、富士山、地蔵岳のオベリスク等360度の眺望を楽しみながらザレたルートを通り頂上に到着。



下山ルートでのザレは少し間違うと滑り落ちそうで、丁度毎年実施するアイゼントレの白坂のようでした。

駒津峰からは往路とは別の双児山を通る尾根筋ですが、このルートが以外と時間が掛かり小屋到着は16時45分と11時間45分も掛かってしまいました。

夕食時、小屋の主人が明日の天気予報を知らせてくれました。 「予報によると午前中は雨、山は逃げないから、出来れば止めて欲しい」と……。 体調不良者3名（？）、雨、甲斐駒ヶ岳の実山行時間11時間45分……。 これらを考え、皆の意見を聞き千丈ヶ岳山行は中止する事に決定し、就寝。

7月28日

早朝は予報通りの小雨。

林道バスで仙流荘へ移動。 仙流荘で入浴を済ませ高遠に出、昼食の蕎麦を頂く。 再び、仙流荘に戻り北岳組の到着を待つ。 4時前に北岳組到着合流。 全員の入浴後新田辺に向かい出発。

「登りたい山と登れる山は違う」と痛感した山行でしたが、十分に楽しみました。  
参加者の皆さん、リベンジしましょう。

ヒヤリハット ありません。



### 甲斐駒Aコース 感想文

西川 洋

約30年振りの南アルプス挑戦。誰の行いが良かったのか快晴の天気恵まれ、遠くには北岳の後方に富士山も望めましたし、雷鳥の親子にも出会えました。

初めて登った甲斐駒ヶ岳、岩山の登坂は疲れましたが、本当に楽しく登れました。これもリーダー佐坂さん、中田さんはじめ皆さんのお陰です。ありがとうございました。

ただ一つ気になったのが、昼の楽しみの弁当。昔の弁当は、大きなおにぎりが2個と漬物があった程度の簡素なものでしたが、今回は、10×15cmくらいの大きさ高さ4cmほどの箱で、その弁当箱の底に7ミリ程度にご飯を敷き詰めて、その上に薄い鱒(ます)の切身と野沢菜漬け4本、煮コンブ少々、漬物少々と1000円の価格を考えると、ボッタクリと思える弁当でした。

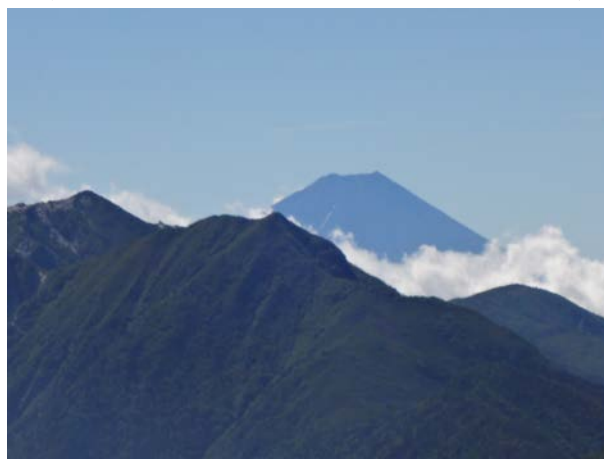
10年後も「こもれび山荘」の姿が残っている事を祈ります。もっとまともな仕事をしましょう。

## 感想文

### 甲斐駒ヶ岳完登できました！

伊藤典子

山友会入会 2 年目、2 回目の夏山登山に参加しました。ところが、昨年の反省も虚しく、今回もまた体調を崩してしまいました。前回と同様に睡眠不足とお腹の調子が悪く、出発から 1 時間半ほど登ったあたりでどうにもしんどくなり、早々とリタイヤを申し出てしまいました。私一人を小屋まで帰せないということで、誰が連れて戻るか、それとも下りの合流地点となる駒津峰まではサポートして何とか登らせるか、あーでもない、こーでもないと皆さんで相談してくださっているのを、他人事のようにボーっと眺めていた私。何て情けない！ 心は沈んでいくばかりでした。皆さんが駒津峰までは頑張ろうと励ましてくださったし、とても楽しみにしていた夏山で、それなりにトレーニング山行で自信をつけたつもりだったので、ここで簡単にあきらめては悔いが残ると思い、もう少し頑張ってみようと思ってきました。結局、本隊は先にスタートし、CL さんのサポートで私のペースに合わせてもらって、ゆっくり後を追うことになりました。30 分ぐらいの遅れで、休憩中の本隊に追いついたので合流し、予定よりかなり時間をかけて駒津峰に到着しました。途中、後ろを振り返ってみると快晴の空に富士山がくっきりと見え、まるで富士山にパワーをもらったようにみるみる元気が出てきました。その後、順調に回復し、皆さんと一緒に甲斐駒ヶ岳の頂上に立つことができました。最高に嬉しかったです。翌日の仙丈ヶ岳登山は明け方からの雨のために断念することになり残念でしたが、せめて甲斐駒ヶ岳だけでも頂上を極められて本当に良かったです。



前回は今回の夏山でも、どうも 2400m あたりが私の高山病を引き起こす高さのようです。前回の教訓として、酸素缶と食べる酸素を持参し、少しでも眠れる工夫を考えてきたのですが、やはり睡眠と排便のコントロールは難しいです。又しても「登りたい山と登れる山は違う」という言葉が重く押し掛かってきました。トレーニング山行はもちろんのこと、日頃の山行にももっと負荷をかけて、少々の高山病にも負けない体力を身につけていきたいと思えます。何とか高山病なるものを克服し、これからは色々な山に挑戦していきたいと思っています。ご一緒してくださった皆様、大変お世話になりました。本当にありがとうございました。これからもどうぞよろしくお願いいたします。

台風が近づいて週末の天候が危ぶまれる中、夏山登山参加者（A・B）は田辺を定刻に出発しました。途中で食事・休憩を十分済ませ長野県には昼頃に到着できた。天候は焼けるような快晴で青空がまぶしく仙流荘で食事休憩してから、北沢峠を目指して林道バスで出発しました。快晴の中バスの中からバスの運転手さんの案内で甲斐駒ヶ岳・仙丈ヶ岳が見え始めるといよいよ南アルプスを実感すると同時に岩場にやや不安を感じていました。

北沢峠で北岳Bコースメンバーと別れ我々は山小屋「こもれび山荘」にザック等の荷物を預けて一先ずホットして皆で小屋の周りを散策。

翌朝は4時起きで5時出発はすでに明るく足元が良く見え快調に歩きだした。登山道の東側の川原はキャンプ指定地で沢山の若者のテントが花盛り。仙水小屋を目指して樹林帯を抜けると左手のゴロゴロ岩の斜面（岩塊斜面）が現れます。南八ヶ岳の編傘山の山頂を思い出した。仙水峠に着いて休憩。目の前に魔利支天が聳えて圧倒された。東側は滑りやすい岩がむき出しで登山は難しそうです。上田さんが南東方の「地蔵岳」のオベリスクを見つけて案内してもらった。その奥



に富士山が見えて感激してる間もなく駒津峰まで急登が続き息が上がり始めた。Iさんが気分が悪いと遅れ気味で高山病のようだ。私が先頭で最後尾が佐坂さんです。佐坂さんが付いて2人は遅れて行く事にして出発したが途中で合流でき回復したようで一安心。駒津峰から岩場の痩せ尾根を進み六方石をすぎると直登（尾根通しコース）が目の前に崖にロープが垂れているのが見えるが、とても我々のレベルでは危険なコースに見え、右手の巻き道を選択した。他の登山者も尾根通しコースは選択していない。花崗岩のざらざらした山肌の急登は上から帰りの登山者が滑るように次々と細かい岩粒を落とす

てきます。春に落石で滑落事故があったことが頭をよぎります。そのころから私の足が上がりなく、汗が大量に出てきて気分が悪い。最初は水のせいと思っていましたが高山病のようです。初めての経験に戸惑いながら何とか山頂に到着した。

山頂からの眺めは最高でした。快晴でガスはなく仙丈ヶ岳、北岳がはっきり見られます。

西の中央アルプス付近は山頂付近に雲がかかって残念。帰りの下山は花崗岩のザラ場を滑るように下り簡易アイゼンがあれば安全でしょう。駒津峰から双児山コースにとって岩場の急坂が続いてさらに樹林帯が長く足が痛く休憩回数が増えましたが山小屋の東側に出てきて着いたー！！翌日は小屋のオーナー今夜から雨が明日の午前中まで続く予定という確実な情報に全員の賛同を得て仙丈ヶ岳は断念した。北沢峠から仙流荘に帰ると天候はどんどん晴れ上がり悔しい思いもしましたが百名山の甲斐駒ヶ岳に登れたことは良かった。

次回には仙丈ヶ岳はリベンジしたいです。

Bチームには申し分けないのですが、夕方の合流まで時間がありましたので麓の町は高遠城で有名で「高遠そば」赤みそを薬味に加える珍しいものを頂きました。

お疲れ様でした。